

第 21号

占 春 会 報

発行 八尾市千塚 2丁目95番地 大阪府立清友高等学校
占春会事務局 TEL (0729) 41-3456

ごあいさつ

占春会長 河合 幸子

昨年、母校、清友高校は、創立五十周年を迎えました。

わが占春会は、その記念に、今まで蓄積してきた会費で、時計塔を寄贈する事に決定し、建立委員の皆様方の努力によって、立派な時計塔を贈呈致しました。又、式典、祝賀会の必要費用も協力致しました。母校の創立以来の50年間に一冊に凝縮された、誠に立派な『記念誌』も、篠先生を中心として、諸先生方、卒業生の手で作成されました。この記念誌については、

後頁をご覧ください。又、式典当日の様子は、写真でご報告します。

さて、同窓会としての、次の大きな事業は名簿を作成する事です。昭和60年に名簿を発行致しましてからは、6年間の空白があり、その後の卒業生より、名簿の問合せが、頻りにきかれるようになってきました。そこで、本年の年頭に実行委員会を開き、各自が、伝統の古さばかりが能にあらず、同窓会名簿がより確実なものでなければ恥しいと、痛感した次第です。その結果、早速本年より名簿作成の準備にかゝり、平成5年には発行という事に決定致しました。それには皆さんのご協力が必要です。住所を変更されて、未報告の方達へ呼びかけて下さい。各学年、

各クラスの同期代表の方は、名簿係までご報告下さい。皆さんと共に、縦・横の絆を固め、立派な名簿を作ろうではありませんか。

いま、静かに顧みますとき、昨年11月3日、我々占春会が中心となって、時計塔の除幕式を挙げるにあたり、教頭先生、篠先生、吉岡先生、旧職員の西澤先生・P・TA、清苑会、一期生を始めとして卒業生と大勢の方々が参列下さい、占春の園の入口近くに建てられた時計塔！それぞれの代表の方が合図と共に、紅白のリボンを引かれ白布が除かれました。粧える信貴の峰々を背に受けた晩秋の一刻。11センチ四面角、高さ8メートルの銀色に輝く時計塔は、11時30分をさしております。

今は、春の日射しを受けて、燦然と輝き、確かな時を刻んでおります。占春の園の梅も綻び、菝郁とした仄かな薫りを、あたり一面に漂わせております。

古代より名を残す千塚の里に建つ、我等が母校、清友高校は、21世紀へ向って力強く飛翔してゆくことでしょう。更にく、母校への熱きおもいを込めて、皆様と共に発展を願いつつ、紙上をお借りして、除幕式にお手伝い下さいましたすべての皆様方に感謝を捧げ、心から御礼申し上げます。

啓蟄やまとも遺跡の

出しニュース 衣女



時計塔贈呈に

おもむきごと

副会長 中易 敬子

すばらしい小春日和の平成2年11月3日、由緒ある玉祖神社の津村宮司（夫人・清友卒）に依る除幕式が厳かに執り行われました。

（注）玉祖神社については、吉岡哲先生の手記を熟読下さい。

〈50〉周年記念誌・はばたく清友―139頁）

校舎と占春の園の間に凜と屹立する時計塔！

感無量のおもいで眺めました。昭和44年に役を引き受けた時点は全財産20万。まさしく貧乏世帯・火の車状態でした。山内一豊の妻ではないけれど、イザの時に役立つたいと役員一同心に決し、役員会の会場を会長宅に移し、茶菓も会長・役員之差し入れて賄い、会場費、茶菓代等一切出費せず爪に火を燈すが如く極力おさえ、一方旧会員からは賛助金を仰ぎ、会報も一部役員の手で校正、棒組み、割付と素人ばかりで夜おそくまでやり、発送については、役員達が宛名書きから、会報折り、切手貼りと単純な仕事ながら一人の責任数は300枚、800枚と年々ふくれ上る

のを、勤務終了後、夕刻から三々五々会長宅へ集い、疲れものともせず手作業したものです。部屋の中には会報・封筒が山積み、そこそこに座り、各々の仕事に精出すサマは、女工哀史の如く。でも雰囲気は明るく楽しく？やっただけです。それなのにドサツと返送される宛先不明の会報（どうぞ住所変更はキッチリ届けてね）。それがやっとなり、永年の念願が出来る運びとなり、永年の念願が叶う事になりました。お世話頂いた役員の方々、ホントに永い間御苦勞様でした。

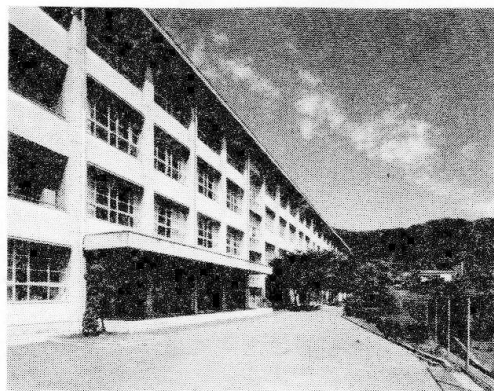
そして会長のご主人様にはご迷惑やら、数々のご協力、助言を賜りました事を誌面をお借りして厚く御礼申しあげます。

おかげで少し貯ると定額にと着実に増やし、後援会設立に際しては個人とは別に会から100万、そして50周年記念協力金として400万と捻出できるまでになりました。

想えばながい道程でした。その間一部の心ない占春会以外の部外者や学校職員の会計はどうなっているの等、フトコロ工合にまで余計な詮索をされて悲しく心外におもった事もありました。

50周年の記念品としてソーラー式の時計塔をときめた処、学校からの注文で二転、三転後やっとなりデザインがきまり、次は価格の交渉

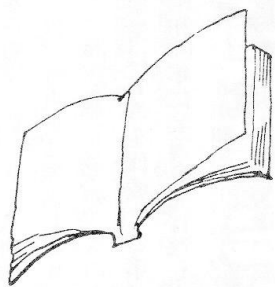
（750万）そして期日に間に合うようにと……、会長の心労は大変だったろうと推察しています。雄



校舎玄関

工舎の方にもご無理をお願いしてその日が無事迎えられました事、深謝しています。会員の大切な会費をしっかりと貯めたトラの子が今、堂々とこ、河内のくに、千塚の里に気高く凜と屹立し、生徒達や学校の将来を見守ってくれているとでしょう。

―清友高校に栄あれと折りつ、―



占 春 会

五十周年記念

時計塔除幕式に

参加して

24年卒 古川 通代

小春日和の11月3日、近鉄山本駅で、同期の清水さんと待ち合せ、信貴山口行き電車で服部川駅に降り立ち母校へと、ちよつと急ぎ足で向う。と言うのも昭和24年卒の私達にとっては、初対面の母校に期待が膨らんで気持ち自然に弾み、若い日々になつかしく会いたいと思うからでしょう。

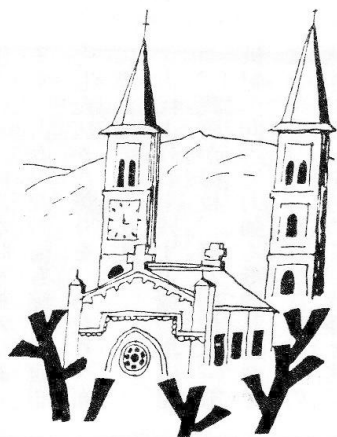
近頃の近郊に見られる乱開発の悪魔の手がそれ程のびていない田園風景と隣り合せに校舎の姿を見た時、ほつとして嬉しく思いました。のびやかな丘の上手の前方に見える信貴の山波が近ければ圧迫感があり、遠ければ画面が弱くゆつたりと程よい距離に広がって校舎を暖かく見降してくれています。

会長の信貴の山々を借景にと御挨拶された言葉通りに、まるで山々に対峙して話しかけてもするように、時計塔がすつくと立ち上っている。美しくまっすぐに両腕をあげて手を組んで祈っている

ような姿、ゆるやかな斜面の下の運動場からも目をあげた視線に映えるでしょう。並んだ教室の窓にも時を報せてくれるでしょう。とにもかくにも女の細腕がこ、迄押し上げて来た。時代の波に呑み込まれそうになった時一度や二度でなかつた。それを先輩諸姉続く後輩、先生、父兄が50年を歴史した。その思いを時計塔が話しつけてくれるでしょう。

夢みる青春時代を過す在校生の皆さんの、一人一人の旅立ちを見守ってくれますよう、占春会員の一人として願わずにはおられません。

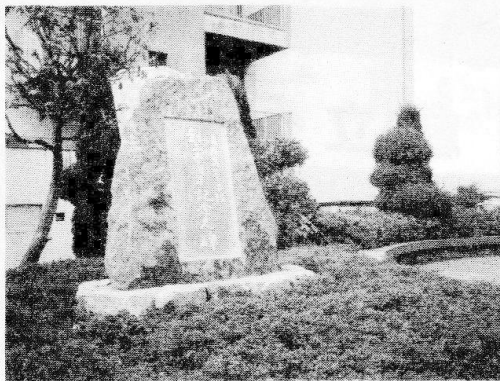
立派な時計塔寄贈に際して会長、副会長、役員、制作に関与された皆様のお骨折りに、改めてお礼を申し上げます。又一期生皆様の母校への熱意あふれる記念碑も末長く清友高校発展を見守ってくれることでしょう。



五十周年記念碑

贈呈を顧みて

一期生 中野 郁子



昭和16年4月、間もなく入学式という或る日、学校より呼び出され、母と二人参りました。「入学式に答辞を、その文を今書く様に」と言われ実に困りました。「もう書けましたか」と校長代理の八雲先生と西澤先生も一緒に来られ、その時母が、「此の学校に入るつもりはなかったのです、すぐに書けないなんて言っております。」と申しました。あの日より50年、夢の様に長くて早い月日でした。戦時下の卒業式もすみ、こゝに「占春会」という同窓会が結成され、会長に生田校長、副会長に錦織教頭を迎え、事務一切を担当の山家鉄五郎先生

が引きうけられました。戦後第一回目のバザーが行なわれ、私共も自分で刺繍したハンカチを出品したり、又、木場さん、私と斉藤先生の三人で泊り込みでおせんざいを炊いたり……。この様な事が皮切りになって50年過して参りました。此の度の記念事業にも占春会としての事を考えておりました。ふと五十周年という言葉の裏には、我々一期生のみが持つ色々な想いのある事に気付き、何か記念の品を是非残したいという思いにかられ、2年前のクラス会にて皆様に謀った処、満場一致で御賛同下さり予想以上に皆が協力して下さいました。私が言い出した以上、自分が動かなければと非常に責任を感じ、早速小林様、ろ組の羽田様、松谷様にも御協力をお願い申しました。はじめ記念碑はとも高価でダメと諦めていましたが、念の為に調べた処、以外にも出来そうという確信を得、早速学校へ下見にとんで行きました。校門に入って真正面、ありました

さつたら、どんなにかお喜び下さった事かと誠に残念でなりません。私として大なり小なり、ずいっと学校にたづさわってまいりまして、その集大成として一期生で記念碑の贈呈をさせて頂く事ができ、この上の喜びはございません。初期の学校の先生、生徒、父兄の方々の意志を受けつぎ乍ら、今日迄の歴代校長並びに先生方、占春会、PTA役員の方々の御苦勞によつて無事清友高校が今日立派に現存しています事、本当に有難く感謝申し上げます。何だか私事ばかり書き、申し訳なく存じます。一筆どうしても書きたくペンをとらせて頂きました。時代は刻々に変化致しておりますが、いつ迄も清友の名が消えませぬ様お祈り申し乍ら終らせて頂きます。「皆様、本当にありがとうございますました！」



『占春会員のみなさま

ありがとうございます。』

会計 柳生 和子

創立五十周年記念式典も平成二年十一月十日(土)滞りなく挙行されました。そして占春の園に立派な時計塔を寄贈することが出来ました。これもひとえに会員皆様方の御協力の賜物と存じます。改めて厚く御礼申し上げます。

五十周年記念事業に関する会計を報告させていただきます。



創立50周年記念事業に関する会計報告

収 入		支 出	
繰越残高	15,863,098円	記念式典費用(学校へ)	4,000,000円
本部会計より	400,000円	時計塔	7,000,000円
銀行利息	67,574円	宮脇造園	496,460円
		時計塔除幕式費用	302,000円
		記念誌	378,000円
		会議費	75,500円
		郵送費	1,134円
		繰越金	4,077,578円
合 計	16,330,672円	合 計	16,330,672円

※上記会計報告書通り厳正に監査し、相違ない事をご報告申し上げます。

平成2年12月31日 会計監査 小林慶子
中野郁子

大阪府立清友高等学校
創立50周年記念式典

創立50周年記念式典ハイライト

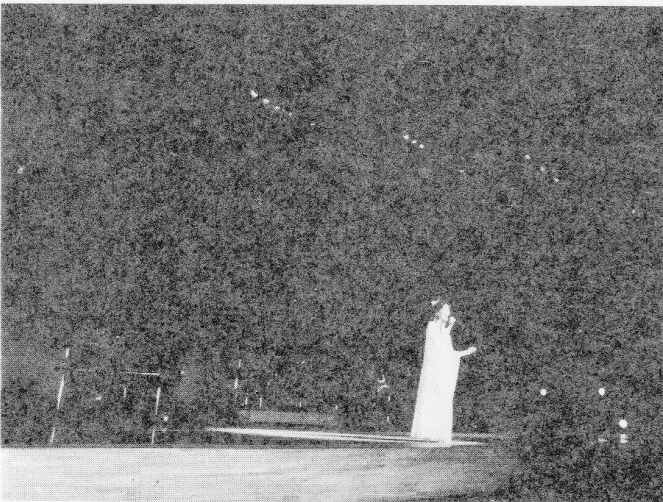


▲吉岡学校長のご挨拶



▲バレエ・井上富志恵さん(高57年卒業)

▼校旗の変遷へんせん(初期の校旗を持っておられる簀先生)



▲歌う芹洋子(善利)さん(市高時代卒業)

平成3年度 占春会総会

- 日 時 平成3年4月28日(日)・PM1時より
- 場 所 八尾市文化会館・4F会議室
- 会 費 無料
- 議 事 (1)会計報告 (2)事業報告(新名簿作成の件)
(3)その他
- 懇親会

※大ホールに於いて、吹奏楽部定期演奏会が開催されています。
ご希望の方は是非ご入場下さい。(最下段のガイドご参照)

占春会のみなさまへ……

お待ちしております！

コンサートへの誘い

第5回記念定期演奏会
吹奏学部OB会長
昭和59年卒 谷村 淳司

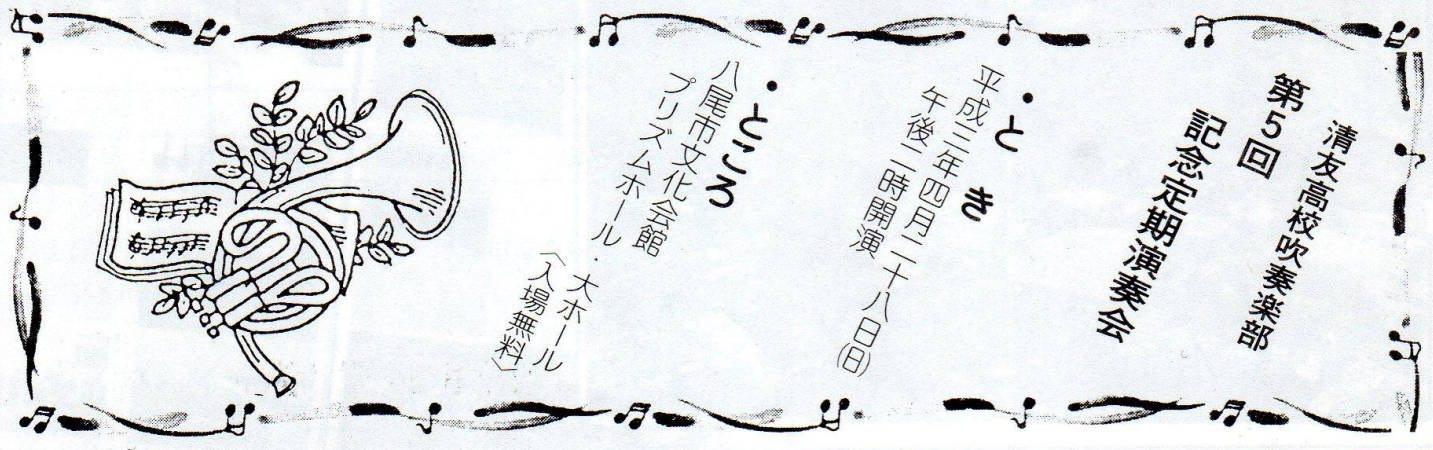
グループから、昨年はAグループに移って出場することができ、着実にクラブとしての実力をつけてきています。

吹奏楽部は、府立移管後に同好会を経て、昭和59年に部に昇格しました。現在8年目のクラブです。クラブ昇格時には、10数名の部員で楽器の種類も少なく、市販されている楽譜を買ってきても、パートが揃わずに演奏できないというような状態で出発しました。しかし、それ以後、年々部員数は増え、同好会として部になってからの在籍部員総数は100名を越えました。また、2年後の現役員数も42名と、文化系のクラブの中では最大規模のクラブになっています。急な部員増のためまだまだ借り物の楽器が多い中、毎年新入部員を迎えています。一応標準的な編成のクラブに成長してきています。

このほか、大イベントになります定期演奏会は創部2年目に柏原市の市民バンドのジョイントコンサート開幕開いたのを契機に、3年目からOBとの合同で、東大阪市民会館や柏原市民会館、八尾プリズムホールで独自に開催しています。毎年、多くのOBが演奏会に参加して、現役生徒とOBの力を合わせての演奏は好評を得ています。その演奏会も今年は一つの節目となる5回を数えるまでになりました。又、今回はOBの人数も増え、OB独自のステージを作ることができました。

活動内容は、文化祭、体育祭、入学式、卒業式などの学校行事での活動や、八尾市の「中・高生のための吹奏楽フェスティバル」の参加や、第5学区の合同音楽会と昭和63年度よりコンクールにも参加し、小規模なバンドのためのB

さあ、占春会の皆様、まもなく開演です。今年、総会で久しぶりに同窓生に顔を合わせ、その後そのまま大ホールでの清友高校吹奏学部第5回記念定期演奏会の開演です。一人でも多くの方々に聞いていただき、御意見、御感想をお聞かせいただきたいと思いますので八尾プリズムホールまで足をお運び下さい。現役、OB、顧問一同心よりお待ちしております。



記念誌の申込み担当をして!

37年卒 植木功子

五十周年の記念誌の受け付けを、自営業で家に一日中居るといふ訳でおおせつかり、昨年8月の会報発送以来、日に何通かのただでさえうれしい申し込み、中には学生時代をとて懐かしく想い出させるお便りとか、まして時折かかる問合わせの御電話には、まるでかじりつかんばかりに「何期生の方ですか?」に始まり、それからそれへとついこのの事のように学校の話をしたりして、私にしてももう卒業以来30年にもなるというのに、この親しみは?お話する事のうれしさは?会長さんがいつもおっしゃいます所の緯の糸を、私は確かにつむいだ実感です。何とこの事なのかお役目冥利に尽きるとはこの事なのでね。

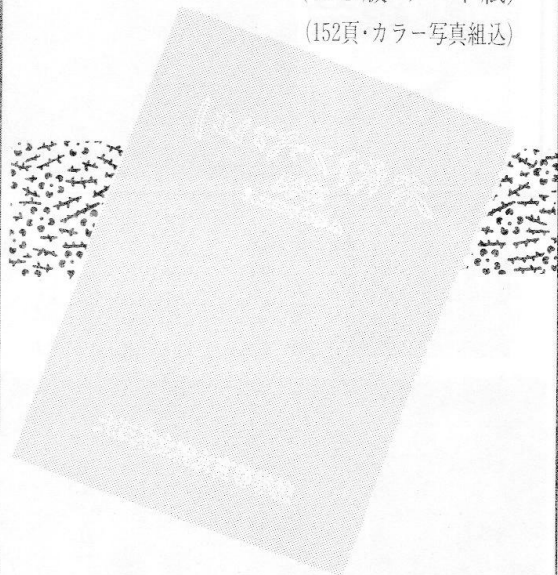
又、申し込みの折におつりなどを占春会に寄附して下さいましたり、個人的には記念誌発送の御縁を持ちまして今年、思わぬお方から年賀状なども頂きました。どうも皆様ありがとうございます。

また記念誌の方はまだまだありますので、なお引き続き申し込みをお受け致しておりますから「もう遅いのでは」と思われずに、この二度と出版されない、素晴らしい記念誌を一日も早く申込みして下さい。お待ちしております。

記念誌紹介

紺に銀箔が映える上製本

(B5版・アート紙)
(152頁・カラー写真組込)



清友高校50年の歴史が写真を盛りだくさんに配し、詳細にかつ楽しく、順を追って編集されています。また学舎生活の全てが文化祭・体育祭や修学旅行をはじめ、生徒会・クラブ活動・学校生活の部分に逸言及され、回想録や周辺の歴史と同窓会の部分にまで、あれこれと著されています。



■創立五十周年

「記念誌」

昭和16年創立より50年間の母校「清友」の懐かしい写真の数々、思い出深い名場面、内容も立派な記念誌です。残り数百部！ご入用の方は左記まで（再版出来ません）
 料金 二、五〇〇円（送料共）
 送り先 〒544 大阪市生野区巽北
 三三三三
 植木功子(宛)
 電話 〇六一七五一一四二五九

記念誌申込み添えての……

お便り紹介

旧職員 中井 孝夫

前略 御免下さい。

私は清友高校の旧職員です。先日、占春会報が届きまして、懐しく読ませて頂きました。どうも有難うございました。

その中にございました。清友高校も今年で創立50周年を迎えるということですね。私は府立移管運動の頃に在職しておりました。感慨もひとしお、新しい府立清友高校を見たい気も致します。

「創立50周年記念誌」が発刊されるということで、私も一冊ぜひ頂きたいと思ひ、さっそく申し込みをします。

昭和41年卒 森本(源)早智子

暑中御見舞い申し上げます。毎年六月頃になりますと、母校の占春会報が待ちどおしくて、楽しみにまっています。

昭和四十二年卒業の春から二十四回目の夏を迎えました。会報からは、わずかに当時の香りがするだけで、だん／＼淋しくなつて来ました。しかし、後輩の人達のご努力、また占春会役員の皆様のご努力が毎号／＼ににじみ出てうれしく思います。感謝致します。五十周年の記念すべき日をむかえ、清友高校のますますのご繁栄をお祈り致します。

創立五十周年記念誌

ぜひよろしく願ひ致します

昭和47年卒 中嶋(福嶋)弘美

前略 本日、思いもかけず占春会報を頂戴いたしました。とても懐しく、様々な事を想い出しながら拝見いたしました。何年もの間、母校とのつながりがあるものといえ、三年間お世話になった担任相馬先生との年賀状だけです。

今回創立五十周年の記念誌が出来上がるのと、大変うれしく思いました。また、諸先輩・後輩の方々が占春会にご尽力されてい

ることに感謝いたしました。お世話ですが、私にもぜひご送付いただけますようお願いいたします。

昭和53年卒 折島 美也

前略 創立50周年おめでとうございます。いつも会報楽しく拝見させて頂いています。会報が届くたびに高校時代が懐しく思い出されます。これからも大変でしょうが頑張つて下さい。

私は病気がち（卒業の時に膠原病が発病して以来）ですが、今では強く、明るく、毎日楽しく、そして有意義に毎日を；そして生きていくことへの感謝で過しております。

微力ではありますが、今までの闘病の体験などを書き綴っています。まあ一闘病日記ですが、卒業して13年、その間5年半もの入院生活をおくりました。その間の生死との闘いです。死の底から蘇みがえり、蘇生したことへの喜びなど、私のノンフィクションの実体験を綴っております。今私はとても幸福を感じております。

皆様も色々大変な中ご苦労様ですが、頑張つて下さいませ。私たちの同級生の三原和子さんへよろしく願ひ致します。



おねがい

■賛助にご協力を！

会報21号は、創立50周年特別記念号の為卒業生全員に送附しました。来年度22号よりは、49年卒生以前の方達へは、賛助金振込者のみに送付される事になります。従つて、49年度以前の卒業生の方で、会報購読希望の方は、左記係まで送金下さい。お問い合わせもどうぞ。

□（送金先）

〒631 奈良市中山町西1-868-139

小寺 康子(宛)

電話 〇七四二一四七〇五二二

□（会報購読希望の方）

賛助金、一口、三、〇〇〇円

寄附金ご芳名

左掲の方々に文中で紹介しました寄附金をお願いいたしました。紙上をお借りし厚くお礼申し上げます。

- 西沢 小枝(先生)
- 業天 俊恵(36年卒)
- 広島 絹子(48年卒)
- 塩谷 勉(日1年卒)
- 藤井とし子(27年卒)
- 坂口 君枝(48年卒)

平成2年度賛助者ご芳名

(敬称略)

左記の方々は、平成2年度中に賛助金をお振込み下さった方々です。厚く御礼申し上げます(但し昭和49年卒業以前の賛助者)。締切りと印刷の関係で最近お振込み下さった方でご芳名を掲載出来なかった場合は何卒ご容赦下さいませ。(役員一同)

- 昭23年卒 山本美智子(天野)
- 浅田 英子
- 昭28年卒 浅川 路子(薮美千代)
- 昭33年卒 竹内美保子(四本)
- 竹森 由江(中易)
- 野口寿鶴子(谷浦)
- 昭34年卒 中村須恵子(井上)
- 昭36年卒 松尾 博子(植田)
- 昭37年卒 山下 捷子
- 昭39年卒 福永 公江(宇陀)
- 岩田二三子(藤村)
- 永野 二代(正木)
- 昭45年卒 武田 俊美(下村)
- 昭47年卒 中嶋 弘美(福島)
- 昭48年卒 坂口 君枝
- 小西 貴子(寺西)



「名簿作成に向って」

書記 辻野伶子

昨秋の五十周年記念行事も無事終わり、母校には、占春会からの時計塔と一期生寄贈の記念碑が、これからの清友高校の生徒達、地域、学校を見守りつづけてゆく事でしょう。同窓会会員の皆様、昨年は会報を全員に発送させていただきましたが、本年度も報告を兼ね、昨年返送されました会報のあて名と住所を確認の上、全員に発送いたします。二年後の名簿作成に正確な住所、あて名を記載する為にも、お友達、先生の中で判明された方はぜひ学校か占春会宛お知らせ下さい。今後共、相互の親睦を計る為にご協力下さいます様お願い申し上げます。

□住所変更連絡先(名簿係)

〒581 八尾市南本町5-3-11

辻野 伶子(宛)

電 〇七二九-二二一四五〇三

占春会のいわれ

同窓会の名を「占春会」といいます。昭和二十年三月、第一期が卒業した時、初代校長生田鹿之丞先生はその慶びを次のような詩によまれました。

浅深紅白満庭梅
 教養多年一様開
 莫道園中才子少
 百株皆是萬葩魁

多年の教養が身を結び、一様に美しく果立っていく卒業生達を、春の魁として紅白とりどりに花開く梅花に擬らえ、祝福されたのであります。

ついでこの梅にたとえた才子の集りを「占春会」と命名されました。その名は、清友の象徴である梅の花に因んで、次の水戸烈公の梅花の詩の第四句より採られたのであります。

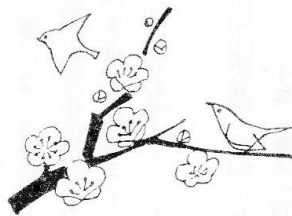
弘道館賞梅花
 徳川才昭
 弘道館中一樹梅
 清香醜郁十分開
 好文豈謂無威武
 雪裡占春天下魁

最初に「莫道園中才子少」とよまれた卒業生は、今では多くの男子の才子を混えて愈々盛大になりつつあります。

「編」集「後」記

来年度22号は、母校便り、卒業生通信頁に重点を置きます。学会、クラス会等の原稿としましてお送り下さい。お待ちしております。

「占春会報」を会員のみなさま相互のパイプ役としてこれからも更により紙面を企画し、会員全員のもの、みんなの広場として御活用いただけるよう、どしどし積極的にご意見・ご寄稿・ご希望をお寄せ下さい。



掲示板

■ご協力下さい！

①異動通知を必ず
 出しましょう。

- 結婚 などの時、
- 転居 ハガキで
- 改姓名 けっこう
- 物故 です。

②住所不明者解明に
 ご協力下さい。

③会報「占春会報」へ
 どしどしご寄稿を！

- ・在学時の思い出。
- ・昔の貴重な資料。
- ・現況便り。
- ・クラス会・集いの報告。
- ・ご意見・希望等。
- ・各卒業年・クラスメートへの呼びかけ。
- ・同窓生の店紹介
- ・慶祝・訃報
- ・恩師のその後の消息の掲載希望申出